

研究計画書

ゼミ名	春日ゼミⅡ	チーム名	春日 太郎
タイトル	転売ハ悪なノカ？		
テーマ群	a)理論・情報 e)産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p><b>【研究の背景と目的】</b></p> <p>2020 年初頭、新型コロナウイルスの流行により、感染防止策として効果が期待されるスクに対する需要が急激な高まりを見せ、マスクを高額転売する行為が社会問題となった。これに対し、政府は国民生活安定緊急処置法の一部を改正し、このような転売行為を法的に取り締まる対応を取った。</p> <p>今回の事例ではマスクおよびアルコール消毒製品に関する転売行為が一時禁止されたが、果たして転売する行為自体に問題があると言えるのだろうか。私たちは感覚的に「転売」という言葉に悪いイメージを持つ場合が多いが、経済学的に考えると「安く仕入れたものを高く売る」行為自体には合理性がある。古着や外国家具等の転売を勧める書籍が多く出版されており、メルカリやヤフオク等のサービスも盛んに利用されている。今回の法規制も 8 月末には解除されていることを考えると、別の理由で規制が行われたと考えるべきだろう。</p> <p>私たちはこのような観点から「取引における公正性」に着目し、このような観点から他に規制されている事例にはどのようなものがあるか、また人々はどのような場合に「不公正」と感じるのか、等について調査することとした。</p> <p><b>【研究内容と期待される成果】</b></p> <p>まず転売に関する経済学的な意味を考察し、公正性の観点から設けられている制度について概観する。また特に「公正さ」に着目し、アンケートによって人々がどのような場合に不公正と感じるかについて調査することとした。大会当日はこの結果について報告し、人々はどのような場合に「不公正」と考えるのか、どのような転売ならば悪と思われぬのか、等について考察することとしたい。</p>		